

会 議 録

1 会議名

第2回上越市総合計画審議会

2 議題

- (1) まちづくり市民意見交換会(1巡目)の開催結果について
- (2) 上越市の現状と今後の課題を踏まえたまちづくりの方向性について
- (3) 次期総合計画の全体構成(案)について

3 開催日時

平成26年5月20日(火)午後1時30分から午後3時30分

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：濱祐子、佐藤芳徳、志村喬、平澤則子、蘆屋秀幸、菅文男、鈴木興次、荒井隆、市川裕光、大嶋慶子、荻谷賢一、田中昭平、田中弘邦、中條美奈子、吉村久子、岩崎康文、上野弘、上原みゆき、御所窪賢一、松縄武彦、松本美鈴
- ・事務局：川上企画政策部長、南企画政策課長、青山係長、石黒係長

8 発言の内容(要旨)

- (1) 開会
- (2) 挨拶

【佐藤会長】

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。審議会も第2回を迎え今後本格審議になるが、忌憚のない意見をお出しいただきたい。上越市が選ばれるまち、住み続けたいまちになるよう祈念し、挨拶とさせていただきます。

(3) 議事

議題(1) まちづくり意見交換会(1巡目)の開催結果について

【事務局(青山係長)】

資料1により説明。

【御所窪委員】

4月22日から始まった市民意見交換会では、出席者数に対して発言者数が非常に少ないように思う。発言者数の割合を会場ごとに計算すると、多いところで13パーセント、少ないところでは1割弱で平均13パーセントである。アンケート回収率は27.8パーセントで、アンケートの回収率としてはよいと思うが、実際の参加人数に対する発言者数が少ないのは寂しいように思う。そのあたりをどのように考えているのか。

【事務局(南企画政策課長)】

市民意見交換会は、先ほど説明したとおり90分から120分程度の開催時間であった。その内訳は、冒頭40分で総合計画・財政計画・行政改革関係の説明を行い、残りの時間が市民の皆さんとの意見交換である。意見交換では、意見のある市民の皆さん全てから意見をいただけたと思っている。会場ごとに開催時間が前後して意見交換の長さが違っており、もしかすると全員でなかったこともあったかもしれないが、挙手された方からは意見をいただいている。時間が限られていたため、時間内に発言されなかった方からも、アンケートにて当日又は後日FAXで意見を頂戴する方法をとっている。発言者が少なかったという印象をお持ちかもしれないが、意見はうかがえたと思っている。

【松縄委員】

資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録の教育・文化分野、文化・スポーツの意見に「歴史・文化を前面にPRすべき。教育・福祉にもっと力を入れるべきであり、そのための教育機関設立を考えてほしい」という発言があるが、この教育機関とはどのようなものを指すのか。

【事務局（南企画政策課長）】

会場で発言いただいたものでなく、アンケートでいただいた意見であるが、教育機関とは大学のことであると思っている。

【鈴木委員】

資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録の都市基盤分野、都市構造の意見に「土地区画整理の面で問題がある」とあるが、どういう意味合いか。アンケートで出たものか。

【事務局（南企画政策課長）】

「まちの姿はコンパクト化」の考え方についての議論で、会場でいただいた意見である。コンパクトシティという言葉については、市民意見交換会の中で様々な解釈があり、各々の発言の内容によって異なるものであった。この方の意見は、上越市はコンパクトシティにより都市化を狭めているはずが、区画整理によって都市化を広げているのではないかというもので、区画整理を行うことに問題があるというものだった。これは土地区画整理をやること自体に問題があるというものではなく、発言いただいた方の考えるコンパクトシティと土地区画整理が相反するとの意見であった。

【鈴木委員】

コンパクトシティに関しては前職に関わりがあり、何でもコンパクトにすることではなく、13区のような地域の一つひとつに大事な核になるようなところを作り、周辺の集落の人がそこに出かけてくるといったもので、市民によく説明すれば理解していただけるものであると思う。

また、現在都市整備部の方で都市計画マスタープランの見直しを行っていると思うが、都市基盤やまちづくりに影響してくるので、総合計画との整合性を間違いなくとるようにしていただきたい。

【事務局（南企画政策課長）】

当然整合のとれた計画でなければならないと思っており、都市整備部とは、十分に整合を図りながら計画策定を進めている状況である。

【佐藤会長】

市民意見交換会で出された意見はぜひ集約して総合計画の中に反映するか、あるいは参考にさせていただきたいと思う。

議題(2)上越市の現状と今後の課題を踏まえたまちづくりの方向性について

【事務局(石黒係長)】

資料2 - 1、2 - 2により説明。

【志村委員】

資料2 - 1の「4 今後のまちづくりのキーワード」について、今ほども話題となったコンパクト化について、3点伺いたい。1点目は、先ほどの説明ではアンケート結果でコンパクトシティに関して色々意見があったとのことであるが、第5次総合計画の非常に重要な概念であったコンパクトシティに対して、否定的あるいは疑問を呈する意見があったのかどうか知りたい。

2点目は、コンパクト化という概念や、言葉は、今後総合計画から文言として消えてしまうのか。

3点目は、コンパクト化とメリハリのある土地利用は、同じ意味であるのか、違うのか、もう少し詳しく教えていただきたい。

【事務局(青山係長)】

まず1点目のコンパクト化という考え方自体に否定的な意見があったかどうかについて回答させていただく。市民意見交換会の中では、コンパクト化に対してそれぞれ自分の中での理解があり、反対・賛成の双方の意見があった。反対するような意見としては、先ほど南課長が話したとおり、合併前上越市の区域の中で土地区画整理事業により居住区域を広げており、中山間地域にお住まいの皆さんをその市街化区域に呼び込もうとしているのではないかとの意見があったが、上越市の今のコンパクトな拠点という概念は、そのような趣旨ではない。他の地域では、拠点の中に、一つの地域として自立していけるくらいの機能をどんどん呼び込むという意味でコンパクトシティを進めるべきという意見もあり、それぞれ捉え方が違っていた。

第5次総合計画に掲載している意味でのコンパクト化に対しては、コンパクト化という考え自体を否定する意見はなかったと考えている。

コンパクトという言葉は今後用いるかどうかは、ご審議いただく中で決めていきたいと思うが、メリハリという言葉の中でも、コンパクト化という概念、現在第5次総合計画に掲げているような、それぞれの地域に拠点があり、最低限生活に必要な機能を備えた生活拠点、それを支える機能をもつ地域拠点といった考え方自体は大きく変わらないと考えている。

【志村委員】

概念や構想自体は肯定的であるということだが、やはりコンパクト化という言葉とメリハリは少し意味合いが違うところがあると思う。今の発言の中にもメリハリの土地利用の中にコンパクト化があるようであったが、それだとコンパクト化以外のメリハリのある土地利用があり得ることになり、例えば土地区画整理はメリハリのある土地利用であるという言い方ができることになるため、言葉の使い方に気を付け、説明をすべきだと思う。改正都市再生特別措置法、いわゆるコンパクト都市法が公布されることもあり、コンパクトシティやコンパクト化という言葉を経済計画にいかすべきだと考えている。

【鈴木委員】

事務局の意見と私の意見は概ね同じである。実際に県の都市政策事業関係においてコンパクトシティという言葉を使いながら取組みを進めてきたが、そこでのコンパクト化の意味は、小さくするというものではなく、一つひとつの地域で質的にレベルの高いものを作るという意味である。例えば板倉区であれば針など、住民の集まる地域の中心的な場所を充実させ、そこを公共交通機関で結ぶ。地域に小型版の生活スタイルを作っていく。これは半分私の考えであり、県の考えでもある。地元の方にコンパクトの意味をよく説明すれば理解が得られると思う。

【平澤委員】

コンパクトシティについて、市民の理解が様々であるのは概念の定義を示していないからだと思う。同じテーブルで物事を語るならば、定義をきちんと示し理解していなければいつまでたっても話がすれ違う。今議論の中でいくつかの定義が示さ

れたが、上越市としてコンパクトシティをどのように定義付けているのかを市民の皆さんにお知らせすることが、考えを共有できる一番の近道だと思う。

【事務局（石黒係長）】

一点補足させていただきたい。「まちづくりの方向性」については、第5次総合計画の検証として取りまとめたものであり、その中ではまず拡散型からコンパクトなまちづくりへ展開していく必要があるとの考え方を「メリハリのある土地利用」という言葉で表現したものである。現時点での分析における見出しとして使わせていただいた。

言葉の定義と実際総合計画の中で使用するかどうかについては、皆さんの方でもご審議いただきたいと思います。

【平澤委員】

資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録について、「主な発言内容やアンケートの回答」の枠の右側に意見・提案の件数が書かれているが、分野別に意見数をカウントすると最も多いのがまちづくりの分野で、自治制度の分類を除いた市民参画と地域コミュニティの分類だけで31件もの意見があった。第5次総合計画では、住民が主役だとか主体であるという点にはあまり触れていなかったと思うが、なぜ31件もの意見が出たのか、その点をどのように分析しているのか。

また、資料2-2の4(4)「新たな公共」の推進のところ、主語が行政になっているような印象を受ける。市民の皆さんが求めていることをどのように反映していくのか。

【事務局（石黒係長）】

まちづくり分野に意見が多かったことについては、個人的な感想であるが、皆さんが市全体のことを思っていたり、また日常生活に即していることや自身の体験に基づいていることから多くの発言をいただけたものと思っている。各地域で実体験に基づいた様々な発言を聞くことができたことは非常にありがたく、行政サービスがいかにあるべきかを考えていかなければならないと感じたところである。

市民主役について第5次総合計画で触れていないという点についてであるが、第

5次総合計画は学びと出会いがあり、人が中心でまちを作っていく、新しい価値を目指していくという計画であり、人が中心ではないということではない。

「新たな公共」の推進について、主語が行政ではないかという点については、「まちづくりの方向性」の分析が、行政の第5次総合計画に基づいた取組の評価であるため、表現上行政視点の色が出ていると思う。まちづくりは市民、行政、両方が担い手であるが、行政側の分析ということで理解いただきたい。

【上野委員】

メリハリのある土地利用について、利便性が高く暮らしやすい都市空間を形成するとあるが、資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録の都市基盤分野、交通政策の中に、「車が使えなくなっても買い物や病院へ行ける交通機関の充実が必要」、「アンケート結果では交通の便がよいと感じていない人が多い」とあるが、行政はこの点についてどのように対処していこうとしているのかが見えない。何か考えがあればお聞かせ願いたい。

【上原委員】

公共交通に関連して、資料1のまちづく市民意見交換会開催記録の都市基盤分野、交通政策には市民の意見・提案が2つ掲載され、その他7件と記載されている。他の分野の意見・提案掲載数と比較すると少ないように感じる。その他の7件の意見はどのようなものだったのか知りたい。

また、第5次総合計画（改定版）の124頁の政策目標にある路線バスの利用者数の平成26年度の目標値308万人が、第5次総合計画基本計画の30頁の同項目では目標値が166万人と極めて減少している。コンパクトシティを目指すならば、路線バスや在来線など公共交通の重要性が高まるはずである。車を持っている人よりは圧倒的に数が少ないが、公共交通がなければ生きていけない人がいる。公共交通の重要性が感じられるような、心の通った温かい表現での記載をお願いしたい。

【佐藤会長】

二人の委員の発言について、議題(3)の中に発言に関する議事があるため、議題(3)の説明後、事務局に回答いただいてもよろしいかと思うがどうか。

【事務局（南企画政策課長）】

議題(3)にて回答させていただき、足りない部分は補足させていただきたいと思う。

【佐藤会長】

議題(2)上越市の現状と今後の課題を踏まえたまちづくりの方向性については、資料2-1、2-2にあるように修正するという方向で事務局の方に進めていただきたいと思いますと思うが、他に意見はないか。

【志村委員】

「コンパクト化」を「メリハリ」という言葉に言い換えるかどうかは、今後も検討していただきたい。

【佐藤会長】

第5次総合計画の基本概念であるコンパクトシティは、全国的に使われている意味でのコンパクトシティであったが、次期総合計画において上越市の考えるコンパクトシティは、全国的に使用されている意味合いから少し離れ、各地域の特徴を生かした行政のスリム化といったものであると解釈している。使用する用語に関しても今後ブラッシュアップしていただきたいと思う。

【志村委員】

先ほどの発言に対する回答で、コンパクトシティの概念に対する否定はなかったとのことから、今までの解釈でよいと思う。コンパクトシティという言葉は他の言葉に読み替えができない概念であるため、生かしていただきたい。

○議題(3)次期総合計画の全体構成（案）について

【事務局（石黒係長）】

資料3により説明。

【事務局（青山係長）】

先ほどの公共交通の維持や利便性の向上についての意見に対し、お話をさせてい

ただきたい。次期総合計画の全体構成の中での位置付けとしては、現段階では資料3の第5章 土地利用構想の2 都市構造（2）交通ネットワークに記載することとしている。構造はまだ確定していないが、土地利用構想の中に何らかの形で位置付けたい。前回の「まちづくりの方向性」の中にも、公共交通の維持に関する課題を掲げていたが、第2章 分野別基本施策の（7）都市基盤の分野の中に位置付けたいと思う。

第5次総合計画の検証を続けてきた中で、公共交通の維持については、利用者の減少が最も大きな課題になっている。その課題を踏まえた上で、どれだけ利便性の高い公共交通ネットワークを作れるのか、また利用者を増加させるためにはどうしたら良いのか、次期総合計画を通じて取組を進めていかなければならないと考えている。

【事務局（南企画政策課長）】

先ほどの質問に対しお答えさせていただく。資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録の都市基盤分野・交通政策に2件の意見・提案しか掲載されていないという点については、その他7件の意見は掲載している2件と同様の内容であったため、2件にまとめて記載させていただいている。

また、第5次総合計画の改定版と基本計画とでは、路線バスの利用者の目標値が大きく異なっている点についてであるが、改定版は合併当時の平成17年に策定したものであり、当時は減少傾向にあったバスの利用者をV字回復させることを計画していたが現実的な数値ではなかったため、平成21年度の総合計画の基本計画の改定の際には、現実的な数値を用いて目標設定を行った。併せて具体的に利便性を上げていく方法や、利用者が減少する中で増大していく行政への負担についても検討し、具体的な動きとしては13区ごとに路線の見直しや利用の実態調査を行い、個別具体的に利用していただきやすい方法も考えている。中郷区や浦川原区でバスよりも小型の車両（ワゴン車）を使用するなど、運行形態を見直し、利用者が使いやすいように検討している。

公共交通はなくすわけにはいかないものであり、移動手段、生活交通である公共交通の確保は非常に重要なものであると思っている。利用者が少ないからなくすという考えは持っていない。並行在来線のダイヤ、本数、路線バスとの関係など複合的な公共交通の維持も検討していかなければならないと考えている。

【上原委員】

すこやかなまち～人と地域が輝く上越～という将来都市像は素晴らしいと思うが、計画の中で出てくる「戦略」という言葉を違う言葉に置き換えることはできないか。単なる用語であることは十分に承知しているが、安心安全に暮らせるということと戦争を連想させる戦略という言葉は相いれない。

【松縄委員】

第5次総合計画では、スポーツ・体育という分野の内容が比較的薄かった。スポーツ基本法の制定もあり、国でも生涯スポーツの推進を強調し、制度的にも整備されつつある。次期総合計画の中では、心の豊かさなど横断的に関連する部分はあるが、スポーツ・体育分野の位置付けが見えにくい。この分野は、教育・文化、健康・福祉等と深く関わっており、市民生活の大きな部分を占めつつあるため、位置付けをしっかりと検討していただきたい。

【荒井委員】

将来都市像について、高齢者人口の多い上越市では、高齢者が輝かなければ若者も輝くことはできないと感じている。上越市は介護保険料や医療費が全国的にみても高く、このことは健康を害している人が多いことを意味している。健康な人が育つように考えていただきたい。

一般的に高齢者の健康には、お茶を飲みながら人と親しく会話するなど仲間作りが大切であると言われている。しかし、上越市には気軽に身近に集まれる施設がない。こどもの家はあるが高齢者の家というのはなく、こどもの家と高齢者の家を一体化したような施設があればよいと思う。町内会館だと集会を行うのにお金がかかるところもあり、簡単に集まることができないこともある。また、平成30年度には老人会関係者が頼りにしている春日山荘の運営継続が危ぶまれており、風呂やバスの配車がなくなるなど、利用できる人は少数に限られるような状況である。施設整備も含めた将来都市構造を考えていただきたい。

【中條委員】

資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録の健康・福祉分野、子育てサービス

のところに、「「若者」が住みたいと思う少子化対策、子どもを産み育てやすい環境整備を積極的に進めるべき」、「子どもを増やす観点から子どもを育てながら勤められるよう企業に対し指導の強化が必要」とある。産業・経済分野、産業立地にも「若者が正社員として働ける職場の確保」、その他の意見でも「市内で若者が結婚し子どもを産んでもらうようにしていく取組」とある。上越市がすこやかであり選ばれるまちであるためには、子どもを産み育てやすいまちであることは非常に重要である。

最近女性の人口流出率が問題になっているが、これは女性が進学等でまちを出たまま帰ってこないと、女性の数が減って子どもは生まれにくくなり、女性の人口流出率の高い土地から早く人口が減っていくというものである。女性の人口流出に対しては、早めに対策に取り組むことが非常に大切だと思う。

上越にも進学等で家を離れている女性が数多くいる。その女性たちが帰ってきて、生きがいを持って働けるような職場が必要である。若者が安心して働ける職場があり、安心して子供を産める制度が整っているということも大切である。健康・福祉、産業・経済、教育・文化にも横断的に関わる課題であり、資料3の第4章 重点戦略の中に子どもを産み育てやすいという点を入れていただきたい。

【上野委員】

資料3の第5章土地利用構想の(2)都市構造の(2)交通ネットワークに関して、徒歩や自転車でもちへ出かけていく若い人が多くいるが、この人たちがもっと公共交通機関を利用し、また利用しやすい環境が整えば経済効果も高まると思う。電車は駅と駅との間がかなり遠く、もっと近い距離に停車できれば利用者増が見込める。ライトレールのようなものが導入されればよいと思う。

また、電車の情報はインターネットで手に入れやすいが、バス情報は入手しにくい。観光客など対外的にまちのイメージを発信するという点において、公共交通は重要なポイントである。例えば佐渡汽船を利用する時、直江津の港まで行くことができるようなライトレールなどがあればよい。今後の交通ネットワークを考えていく中で、市民が使いやすい公共交通をイメージしていただきたいと思う。

【松縄委員】

資料2-2の4 今後のまちづくりのキーワードの(4)「新たな公共」の推進について、「新たな公共」の捉え方を周知し、行政としてどのように取組んでいくかを

明確にした方がよい。NPO団体、任意団体等は、資料3の基本計画の第2章に示す7つの分野をまたいで様々な活動をしている。これら市民活動団体の役割を明確にし、行政が取り組むこと、市民が主体的に取り組むことが分かるような表記をすべき。

【平澤委員】

将来都市像のすこやかなまちには健康のイメージが先行する。人口減が進めば診療所の閉所など様々な問題が予測される。在宅で安心して息を引き取ることができる、というのは国が重点を置いて考えているところであり、将来都市像の概念の中にも位置付けていただきたい。

【大嶋委員】

将来都市像としてすこやかなまちを掲げているが、やはり健康は大切であり、自分のことは自分でできる状態で生活を送れるということが幸せな生き方であると思う。資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録の健康・福祉分野、高齢者福祉の中に、市の最重要課題は、介護保険料と国保の医療費が高いことであり、全市を挙げて取り組むべきである、と書いてある。上越市は人工透析を受ける方や、働き盛りの40～50代で脳梗塞や心筋梗塞になる方の割合が全国より高い傾向にある。人工透析は年間で一人当たり500万円費用がかかると言われており、透析患者を減少させるとその分の医療費を削減することが可能である。予防の面でも力を入れていただきたい。

また、子どもの健康教育にも力を入れてほしい。現在小学校5年生と中学校2年生で血液検査を行っているが、脂質異常等の割合が高くなっている。今後上越市を支えていく子どもたちの健康教育に力をいれていただきたい。

【佐藤会長】

総合計画の策定では、こどもからお年寄りまでを念頭に置くことを大切にしてほしい。

【蘆屋委員】

重点戦略に何が示されるかが重要だと思う。防犯・防災が第一、産業等他の分野

も大切である。特に項立てについて意見等はない。

【菅委員】

雇用の創出については、産業施策と連携した中で地域の雇用を維持していくという部分に賛成である。

【御所窪委員】

上越市は、安定した雇用と安心して子育てができることが重要であると思う。

資料1のまちづくり市民意見交換会開催記録の産業・経済分野、産業立地に2つ意見・提案が示され、その他13件の意見・提案があったとされているが、その他13件の中に参考になるものがあれば教えていただきたい。

【事務局（青山係長）】

先ほどの説明にもあったが、13件の意見・提案は、記載された2件とほぼ同様のものであった。具体的な提案として、雪を活用した事業を行うなどといった提案があった。

【佐藤会長】

新幹線開通によって人と情報が運ばれる。運ばれてくる情報のいかし方は、企業誘致、産業立地のヒントになると思う。IT産業はかなり可能性があるのではないか。

【吉村委員】

外部団体を上越市に招く際、団体の方々を案内できる場所があまりない。施設の整備を行い、外部へ地域の宝をPRすることに力を入れていただきたい。

【岩崎委員】

市町村合併からまもなく10年が経過するが、それが上越市の抱える様々な問題の要因となっていると思う。交通インフラは、合併前上越市と13区で相当の差があると認識している。上越市民がもっと上越市を知ることが大切である。市民は仕事以外で13区の方に出かける機会が少ないと思う。もっと市内の様々なところに出かければバス等の利用者も増加し、上越市を知ることが今後上越市をより良くし

ていくために最重要であると思う。行政も同様であり、もっと上越市を知るべきである。

観光には力を入れていてもなかなか効果に繋がっていないのが現状であると思うが、今年は高田公園の観桜会が過去最大の入込であったとのことであり、そういった点を起爆剤として観光を栄えさせれば、おのずと産業立地や文化、教育、スポーツ、福祉、全てに好循環を生み出すと思う。今後そのような観点でまちづくりを行うことが大切であると思う。

【佐藤会長】

議題は今後も引き続き審議していただく。意見がなければこれで議事を終了する。

【全委員】

了解。

4 その他

【事務局】

次回審議会日程等事務連絡。

(9) 閉会

【川上部長】

本日は長時間にわたり熱心なご協議、ご検討をいただき感謝申し上げます。頂戴した意見は次回の検討に生かし、事務局の方で整理をさせていただきたいと思う。お気づきの点等あれば遠慮なく意見提出シートや電話等でお寄せいただきたい。

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画政策係

TEL : 025-526-5111 (内線 1452)

E-mail : kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。